

技術提案書を特定するための評価基準

別紙-3

技術提案書の評価項目および判断基準は、以下のとおりである。

①配置予定技術者の経験および能力【様式-2-1, 2-2, 2-3, 3】

評価項目	評 価 の 着 目 点			判 断 基 準	ウ ェ イ ト	
予定技術者の経験 及び能力	管 理 技 術 者	専 門 技 術 力	業 務 執 行 技 術 力	過去15年間の 同種または類 似業務の実績 の内容	手続き開始の公告日の前日から起算して15年間（手続き開始の公告日の前日までに引渡し完了したものに限る）において、下記の順位で評価する。 ①同種業務の実績が2件以上ある。 (90) ②同種業務の実績がある。 (45) ③類似業務の実績がある。 (0)	90
	主 た る 担 当 技 術 者	専 門 技 術 力	技 術 資 格	技術者資格およびその専門分野の内容	下記の順位で評価する。 ① 技術士（総合技術監理部門：「道路」） または技術士（建設部門：「道路」） (30) ② R C C M「道路」 (15) ③ ①、②とも有しない。 (0)	30
			業 務 執 行 技 術 力	過去15年間の 同種または類 似業務の実績 の内容	平成17年度以降公告日までに完了した業務のうち、下記に記載する「同種または類似業務」において1件以上の実績がある者とする。 ① 同種業務の実績がある。 (30) ② 類似業務の実績がある。 (15)	30
	そ の 他 担 当 技 術 者	専 門 技 術 力	地 域 精 通 度	県道路行政の 実績 【様式-2-2】	滋賀県庁土木技術職として、道路行政に従事したことのあるものを担当技術者として配置した場合は記載する。 (20)	20
	照 査 技 術 者	専 門 技 術 力	業 務 執 行 技 術 力	過去15年間の 同種または類 似業務の実績 の内容	手続き開始の公告日の前日から起算して15年間（手続き開始の公告日の前日までに引渡し完了したものに限る）において、下記の順位で評価する。 ①同種業務の実績が2件以上ある。 (30) ②同種業務の実績がある。 (15) ③類似業務の実績がある。 (0)	30
小計					200	

②実施方針【様式－８】

評価項目	評価の着目点		
		判断基準	ウェイト
実施方針・実施の 着眼点	業務理解度	目的、内容の理解度が高い場合に優位に評価する。 ① 正しく理解 (20) ② 概ね理解 (10) ③ 理解度が低い (0)	20
	実施手順	業務実施手順を示す実施フローの妥当性が高い場合に優位に評価する。 ① 妥当性が高い (20) ② 妥当性がある (10) ③ 不整合な部分がある (0)	20
		業務量の把握状況を示す工程計画の妥当性が高い場合に優位に評価する。 ① 妥当性が高い (20) ② 妥当性がある (10) ③ 不整合な部分がある (0)	20
	その他	業務に関する知識、有益な代替案、重要項目の指摘がある場合に評価する。 ① 上記項目が的確に記述されている (20) ② 上記項目が一定記述されている (10) ③ 上記項目の記述が不十分である (0)	20
		地域の実情を把握した上で、業務の円滑な実施に関する提案があった場合には評価する。 ① 優れた提案がある (20) ② 概ね優れた提案がある (10) ③ 提案が不十分である (0)	20
小計			100

③特定テーマ1【様式-9-1】

評価項目		評価の着目点		
		判断基準	ウェイト	
特定テーマに対する技術提案内容	特定テーマ1「県内全域を対象に経済的な視点で課題を整理するための手法について」	的確性	着目点、問題点、解決方法等が適切かつ論理的に整理されており、本業務を遂行するにあたって有用性が高い場合に優位に評価する。 ① 有用性が十分ある (80) ② 有用性がある (40) ③ 有用性が不十分である (0)	80
		実現性	提案内容に説得力がある場合に優位に評価する。 ① 説得力が十分ある (50) ② 説得力がある (25) ③ 説得力が不十分である (0)	50
			提案内容を裏付ける類似実績などが明示されている場合に優位に評価する。 ① 複数の類似実績が明示されている (40) ② 類似実績が明示されている (20) ③ 類似実績の裏付けが明らかでない (0)	40
		独創性	新たな発想に基づく提案等がある場合に優位に評価する。 ① 新たな発想に基づく優れた提案である (80) ② 新たな発想に基づく提案である (40) ③ 新たな発想に基づく提案がない (0)	80
小計				250

④特定テーマ2【様式-9-2】

評価項目		評価の着目点		
		判断基準	ウェイト	
特定テーマに対する技術提案内容	特定テーマ2「各路線の実現性を検証するためのプロセスや手法について」	的確性	着目点、問題点、解決方法等が適切かつ論理的に整理されており、本業務を遂行するにあたって有用性が高い場合に優位に評価する。 ① 有用性が十分ある (80) ② 有用性がある (40) ③ 有用性が不十分である (0)	80
		実現性	提案内容に説得力がある場合に優位に評価する。 ① 説得力が十分ある (50) ② 説得力がある (25) ③ 説得力が不十分である (0)	50
			提案内容を裏付ける類似実績などが明示されている場合に優位に評価する。 ① 複数の類似実績が明示されている (40) ② 類似実績が明示されている (20) ③ 類似実績の裏付けが明らかでない (0)	40
		独創性	新たな発想に基づく提案等がある場合に優位に評価する。 ① 新たな発想に基づく優れた提案である (80) ② 新たな発想に基づく提案である (40) ③ 新たな発想に基づく提案がない (0)	80
小計				250
合計				800